倉敷市議会
受
8.5.22
付
事務局

令和　8年5月22日

学校再編整備計画の白紙見直しを求める請願

（紹介議員）

氏名　篠田純一

氏名　高山　久

学校再編整備計画の白紙見直しを求める請願

（請願の趣旨）

現在、進めている学校再編整備計画を白紙見直しとし、平成２２年に策定した学校等適正配置計画に基づき、いまだ、達成されていない江戸崎地区（江戸崎小学校、高田小学校、沼里小学校）及び東地区（あずま北小学校、あずま西小学校、あずま東小学校）の統合を先行させるとともに、時代に対応できる義務教育環境（小中学校）の在り方を示すことを求めます。

（請願理由）

稲敷市教育委員会が、現在、示している学校再編整備計画の根拠となるものは、東西２校の中学校敷地内に小学校を統合するという、将来的には「小中一貫教育」を目標とする案が示されております。文部科学省が提示していることは、小学校と中学校が連携を深めることを目的としていて、統廃合とは全く関係がないものであり、小中一貫「校」と小中一貫「教育」は、名称が似ているだけで、稲敷市は小中一貫「教育」を提示し目指すものと聞いております。

つまり、統廃合とは全く関係がない指針であり、稲敷市教育委員会の提示しているものは、新しい教育として目新しい物は何もなく、①文部科学省の提示している小 中一貫教育と、②小規模校の廃校、この二つの要素で構成されていることが分かるわけです。
さらに言えば、①と②は別の話であるのに、両者を混同するような説明がなされていることで 資料としても不誠実な内容であり、わかりにくいものであります。

保護者からは、次のような意見が出されています。

①教育委員会が進める東西２校（江戸崎中学校、東中学校に小学校を統合）に対する疑問
②学校の役割として災害等にも対応できる地域防災の核となる施設であるべき
③不登校 児童など多様化教育における細かな対応の不備
④他市などで行われている「学区を横断した学校選択制の導入」などの意見が出ており、
再編を考え直すべきというのが保護者の大多数の意見であります。

まずは、現在進めている学校再編整備計画を白紙見直しとし、平成２２年に策定した学校等適正配置計画に基づき、いまだ、達成されていない江戸崎地区（江戸崎小学校、高田小学校、沼里小学校）東地区（あずま北小学校、あずま西小学校、あずま東小学校）の統合を先行させるとともに、時代に対応できる義務教育環境（小中学校）の在り方を考えるべきです。

保護者・地元との協力をもって教育を作っていこうという時代に、稲敷市教育委員会の決定手法は時代錯誤的という他はありません。地元と学校と保護者と、皆が一体となって協議を行って、皆で前向きに協調・協力してこそ、夢のある教育を形にすることが出来るものと考えます。

その土台部分が出来ていなければ、どんな理想像を語っても失敗に終わってしまいます。

土台がしっかり形成されていてこそ、稲敷市の未来を語ることが出来る教育が現実になるのであり、今回の学校再編整備計画は、稲敷市が誇るべき教育資源を、当の本人である稲敷市が理解していないと言わざるを得ません。

「財政が問題で小規模校を廃校にするのではない」というのであれば、小規模校を廃校にする理由がわかりません。

豊かな教育資源のみならず、小学校の廃校は地域の過疎化を促進するものであり、このような考え方は、誰のためのものなのか。子どもたちのためだろうか、保護者のためだろうか、地元住民のためだろうか。地元との連携を活かした教育を目指すのではなかったのか。いったい誰を教育の主人公に設定するべきなのか、改めて考えて頂きたい。

以上のとおり請願いたします。

稲敷市議会議長　松戸　千秋　様

令和８年 5月22日

請願者

住所 稲敷市浮島4478

市内小中学校の未来を考える会

氏名 会長 黒田 和輝